第15回囊胞性腎疾患研究会公開講座

「多発性嚢胞腎(PKD)の治療薬開発の現状について」 2007年9月1日 東京国際フォーラム by Dan Larson (President & CEO, PKD Foundation)

> ラーソン氏(PKD財団代表) にお話をしていただく前に、、、。

Fuj

当番世話人:長尾枝澄香(静子)

藤田保健衛生大学大学院 疾患モテル教育研究センター准教授

Fujita Health University hizuko NAGAO

に至るまでには、疾患モデル動物(ネズミ) を用いた研究が行われております。 ただのネズミの実験、されど、、、

Fujita Health

Shizuko NAGAO

私、長尾は、多発性嚢胞腎(PKD)の疾患

モデル動物を用いて研究している基礎研究

者です。機会があるたびに、「医療に貢献し

ている疾患モデル動物を用いた研究成果」 についてお話させていただいております。

今回ラーソン氏がお話されます臨床治験

3

多発性囊胞腎

常染色体優性多発性嚢胞腎(ADPKD)

- 責任遺伝子: pkd1(ヒト染色体16番)pkd2(ヒト染色体4番)
- 85%のADPKDはpkd / 遺伝子が、
 15%のADPKDはpkd / 遺伝子が原因となる。

常染色体劣性多発性囊胞腎(ARPKD)

• 責任遺伝子: Pkhd1(ヒト染色体6番)

優性遺伝とは次世代に形質が現れる場合を、 劣性遺伝とは現れない場合を言います。 [例:黒眼(優性)、青眼(劣性)]

Fujita Health University Shizuko NAGAO

2

疾患モデル動物(ネズミ)

					· ·	11
動物種	モテル名	疾患名	遺伝子名	優性遺伝(D) 劣性遺伝(R)	病態	
ラット	PCK	ARPKD	pKhd 1	R	多発性囊胞腎·	AŦ .
マウス	pcy	ネフロン癆	NPHP3	R	多発性囊胞腎	•
ラット	Han:SPRD-Cy		PKdr1	D	多発性囊胞腎	
マウス	cpk		Cys1	R	多発性囊胞腎	
マウス	bpk		Bicc 1	R	多発性囊胞腎·	A Ŧ
マウス	orpk		TgN737Rpw	R	多発性囊胞腎	(
遺伝子操作	モデル名	疾患名	遺伝子名	ヒトの染色体	番号	—)
マウス	Pkd1 ^{-/+}	ADPKD	PKd 1	16913.3		
マウス	Pkd 2 -/+	ADPKD	PKd2	4921-23		

Fujita Health University

Pkhd1-/+

ARPKD

Shizuko NAGAO

pKhd1

6p21





